



写真 シマドジョウ

かわはく No.39

CONTENTS

スロープ展案内「宮川のいきもの」	2
夏期企画展開催報告「カメ・カニ・スナ～埼玉で海あそび～」	3
かわはく体験教室開催報告	4
職場体験報告	5
春の企画展案内「コウモリ～batな春休み～」	6
イベントに参加しました「荒川いかだ下り大会」	7



スロープ展案内 「宮川のいきもの」

10月5日～翌年1月30日（予定）で、スロープ展示「宮川のいきもの」を開催しています。かわはくでは構内や周辺に生息する生きものを記録していますが、今回は構内を横断して、荒川と合流する小さな川である宮川の生きものを紹介します。構内はわずか数百メートルですが、いろいろな生きものが生活の場としたり、エサをとったり、新しい命を誕生させていたりすることがわかりました。

■宮川の特徴

宮川はどのような特徴を持っているかといえば、生きものの生息には全く適さないコンクリートの三面張りであつたり、護岸は人工的ながらも川底に適度に砂れきがたまっていたり、荒川との合流点の手前は水深や流れに変化があり護岸もなく自然に近かったりと、変化にとんだ環境といえます。生きものは当然自然に近い方が種数、個体数も多く発見されています。

■トンボ類・水生昆虫類

宮川のまわりでは春から秋にかけてたくさんの種のトンボを観察することができます。なかでも宮川で繁殖し、成虫を観察できる種はハグロトンボ、オニヤンマ、オナガサナエなどです。成虫が黒い羽のハグロトンボは初夏に多く観察でき、かわはく構内を代表する種とっていいでしょう。



クラカケカワゲラの仲間

トンボの仲間のほかにも、水の中ですごす昆虫は多種多数生息し、最も多く生息するのはヒゲナガカワトビケラです。冷たくきれいな水を好む昆虫である、クラカケカワゲラの仲間、フタメカワゲラの仲間、タニガワカゲロウの仲間などが生息しています。

■魚類・甲殻類など

魚類は冷たくきれいな水を好むシマドジョウとアブラハヤが代表種です。これらはほぼ1年中観察されます。他にはドジョウ、モツゴ、ナマズ、オイカワも記録されました。また、外来種であるコクチバスが記録され、在来の種への影響が心配されます。

甲殻類も冷たくきれいな水を好むサワガニが代表種です。また、ヌカエビやアメリカザリガニも多く、そのほかの節足動物として、流れがゆるく落ち葉がたまつた泥底にはミズムシが生息しています。

■哺乳類・鳥類・両生爬虫類

宮川を餌場として利用している動物も多く、哺乳類ではホンドタヌキやニホンイタチが挙げられます。夕方になると、蚊などを食べるアブラコウモリが飛んでいることがあります。また、最近では各地で問題になっている外来種アライグマの痕跡も多く見られます。

鳥類は水生昆虫を好むハクセキレイ、セグロセキレイが多く観察され、カルガモやかわはくのシンボルでもある大変美しいカワセミもまれに観察できます。



ハクセキレイ

両生類はニホンアカガエルや国内外来種のヌマガエルが夏場に川岸に多く生息しています。ヌマガエルは増水時に流されてきたのか、オタマジャクシも発見されています。爬虫類はヘビ類が多く、ニホンマムシ、ヤマカガシ、ヒバカリ、シマヘビが記録され、カエルなどのエサを目当てにやってくると思われられます。

（研究交流部 藤田宏之）



夏期企画展開催報告

カメ・カニ・スナ ～埼玉で海あそび～

今年の夏期企画展「カメ・カニ・スナ～埼玉で海あそび～」のコンセプトは「砂浜であそぶ」。学芸員それぞれの専門を生かし、海無し県埼玉の方に砂浜で遊ぶことの魅力をお伝えできればという主旨で開催されました。

学芸員が特にこだわったのは、海にあそびに来た雰囲気を感じてもらうこと。そのために波の音のBGMを流したり、ビーチパラソルを立ててみたり、天井にはカモメのモビールを吊してみたりと、雰囲気作りを重視しました。その上で、分かりやすいイラストと言葉で、「我々かわはく学芸員が砂浜に行くと、何を見て何を考えるのか」を伝えるよう工夫しました。砂浜にいるカニの見つけ方、一見ゴミのようだけれどたくさんの情報を持っている漂着物、もちろん砂浜を構成する「砂」自体も砂浜によって個性があります。私たちが海に行くとき、もちろん学問的なことも考えますが、それよりも砂浜にあるいろいろな物を「楽しんで」見えています。学問的海あそびの楽しさが少しでもみなさんに伝わるようにと、そんな願いも込められた展示となりました。

中でも苦労をしたのは、展示をするための資料集めです。何せ埼玉は海無し県です。忙しい仕事の中、埼玉から海へ出かけるのは一苦労です。展示は主に、これまで学芸員が個人的に海に遊びに行つてコツコツと集めてきた資料を利用しましたが（展示室内の波の音も、学芸員の石井が趣味で

録音しておいたものです）、展示を組み立てるにあたってやはり足りない部分が出てきます。資料が足りない、けれど海に行くには時間的にも体力的にも余裕がない、でも行かないと…。そんな時は砂浜をテーマに選んだことを限りなく後悔したりもしましたが、「私達が楽しめなければ見て下さる方も楽しめない！」と言い聞かせ、頑張つて海へ出かけて資料採集を行いました。

また今回の企画展では、東京学芸大学のデザイン研究室とタイアップして、ポスター・チラシ・図録を制作しました。図録や展示の各所に使われたイラストは、すべて学生である富塚裕佳子さんの作品です。博物館としての展示意図と、デザイナーの個性をうまく調和させつついい図録を完成させるというのは、とても労力のいる作業でした。少ない時間の中でも、できる限り力を発揮した図録が出来たのではないかと思います。子ども向けの科学絵本をコンセプトに作られた展示図録は、かわいいイラストと砂浜あそびがいろいろ詰まっています。しかし大変残念なことに、この図録の売れ行きが思わしくなく、我々の労力は報われないうえに、もしこの文章を読んで改めて興味を持たれた方は、ぜひ川の博物館までお問い合わせください。

(研究交流部 小林まさ代)



展示室入り口に飾られたアオウミガメ



日本各地の砂コレクション



かわはくサタデー自然教室 「シラスの中のチリモンさがし」

夏休み期間中の8月7日「シラスの中のチリモンさがし」を実施しました。チリモンとはチリメンモンスターの略称ですが、煮干などの材料になるカタクチイワシの稚魚であるチリメンジャコ（シラス）の中に混じっているモンスター、つまりチリメンジャコではない謎の生きものを探してみよう、という講座です。大阪府岸和田市のきしわだ自然資料館で始まり、夏休みの自由研究の材料として、各地で人気を博しています。

実際お店で見かけるチリメンジャコはすでに混ざりものをより分けているので、「モンスター」を見つけるのは難しいですが、教材用として選別していないのを用意しました。参加した大人も子どもも、お皿に盛られたチリメンジャコから、とても小さな「モンスター」を探して真剣ににらめっこしていました。生まれて間もないイカやエビのゾエア（幼生）など魚類でないものや、タイ、アジ、サバの仲間などおなじみの魚の稚魚などが見つかりました。見つけた「モンスター」は顕微鏡

で観察し、参加者それぞれお気に入りを発表しました。

担当者はお魚を食べるのも観察するのも大好きで、海のない埼玉県の子どもたちにも、もっとお魚に注目してもらい、興味を持ってもらえればと企画しました。そしてカルシウムたっぷりのチリメンジャコを、おいしくたくさん食べてもらいたいなと思いました。（研究交流部 藤田宏之）



チリモンを探せ！

川に親しむ教室 「川のぼりたんけん」

かわはく体験講座の中に「川に親しむ教室」があります。川に親しむ教室は少人数で文字通り川に楽しく親しむことを目的としています。さまざまなイベントがありますがその中でも全身を使って川を体験した「川のぼりたんけん」を紹介します。

7/19(月)に川の博物館がある寄居町より少し上流の荒川支川、風布川の川のぼりを行いました。

参加者は15名6家族です。川の博物館に集合し、バスに乗って風布川下流まで行き、準備運動後3班に分かれて1.5kmほど川を遡上しました。最初は流れてくる水の抵抗に戸惑いながら漕ぎていきましたが、流れにも慣れ、調子をつかみだすと流れに乗って遊ぶ余裕も出てきました。

午後1時ごろ目的地に到着し遅めのお昼を食べました。2時間近く川に浸かっていたので、体が冷えていて猛暑で暑いはずの空気が温かく感じました。とても贅沢な体験です。

お昼休憩をすませ残り1時間、川に入って遊ぶ

グループと、川砂から鉱物をより分けるパニング体験をするグループに分かれました。どちらのグループとも楽しめたようです。バスに迎えに来てもらい、川の博物館に到着。大きなケガなど無く無事に川を楽しむことができました。皆さんお疲れ様でした。（研究交流部 石井克彦）



天然ウォータースライダーだ！



夏休み中に実施しました 職場体験報告

記録的な暑さとなった、2010年夏。この夏かわはくには夏休みの期間を利用して、寄居町立寄居中学校、寄居町立城南中学校、寄居町立男衾中学校、埼玉県立寄居城北高等学校の各校1年生の皆さんが職場体験（インターンシップ）にやってきました。

職場体験に来てくれた皆さんは、かわはくの地元寄居町出身の生徒さんが大半だったので、子供の頃から何度も遊びに来てくれていて、かわはくのことをとてもよく知っていました。

しかし、いくらかわはくのことをよく知っているとはいえ、職場体験に来る前まで知っていたことといえば、それはかわはくに遊びに来た時に見る「表側の部分」だけで、博物館の裏側の仕事まで知っている人はまずいません。「博物館の裏側では普段、かわはくの職員はいったいどんな仕事をしているのか？」この点をぜひ職場体験に来てくれた皆さんに体験して知ってもらえるように、今回も様々な経験をしてもらいました。

皆さんに共通してやってもらったのは、かわはくにいらっしゃるお客様の接客を行っている交流員のお仕事です。交流員の仕事と一言でいっても内容は実に様々で、本館入口でのお客様への挨拶に始まり、荒川わくわくランドやアドベンチャーシアターの運営、鉄砲壘などの実演イベントの実施やワークショップでの説明係などなど、仕事内容をあげれば切りがありません。時には交流員と一緒に、また時には交流員にフォローしてもらいながら、大きな声を出して働いてもらいました。初めのうちは挨拶をすることを恥ずかしがったり、子供達に説明したりすることをためらっていましたが、慣れると皆さん大きな声で接

客ができるようになりました。

話題は少し変わって、次に職場体験に来てくれた皆さんがかわはくで実際に働いてみて、驚いたことについて紹介します。かわはくでは毎月、学芸員が中心となってかわサタ自然教室などのイベントを行っています。生徒さん達の中にも、これまでこれらイベントに参加してくれていた人もいて、イベントの内容などについてはよく知っていました。ではみんなが何について驚いたのかというと、それは1つのイベントを実施するために必要な事前の準備と実施後の後片付けの量、そしてこれら準備や後片付けの中には意外と力仕事が多いということなどでした。職場体験終了後に話を聞いてみたところ、みんなが一樣に持っていた博物館の仕事に対するイメージは、

- ①「室内で机に座って黙々と仕事をしている」
- ②「力仕事はせず、どちらかというと頭を使う仕事ばかりしている」

というものでした。そのため、実際に博物館で働いてみて大分博物館の仕事に対するイメージが変わったと感想を話してくれました。

他には新しい展示の作成を手伝ってもらったり、新イベント実施のための予行演習を手伝ってもらったり、毎日毎日汗だくで働いてもらいました。

とはいえ皆さんにやってもらった仕事はまだまだ博物館全体の仕事のほんの一部です。その中で少しでも多くの仕事を経験してもらって、これまで知らなかった博物館の姿を知ってもらえたのではないかと思います。ぜひこの夏の職場体験の経験をこれからの学校生活の中で生かしていただければと思います。

(研究交流部 羽田武朗)



ワークショップにて



わくわくランドでの交流員体験



企画展示「コウモリーbatな春休みー」のお知らせです。空を自由に飛べる唯一の哺乳類コウモリ、以外と身近な場所にいることを知っていますか？身近なゆえに知られていないコウモリのひみつを紹介します。

その姿形から気味悪がられ時々、害獣にされてしまうこともあります。人間の役に立っている部分もあります。疫病を運ぶ力を大量に食べてくれるのです。街中でふつうにみることのできるアブラコウモリは一晩に力を3～500匹も食べるようになります。今でこそ少なくなりましたが、日本脳炎やマラリアなどは力が運ぶ怖い病気です。

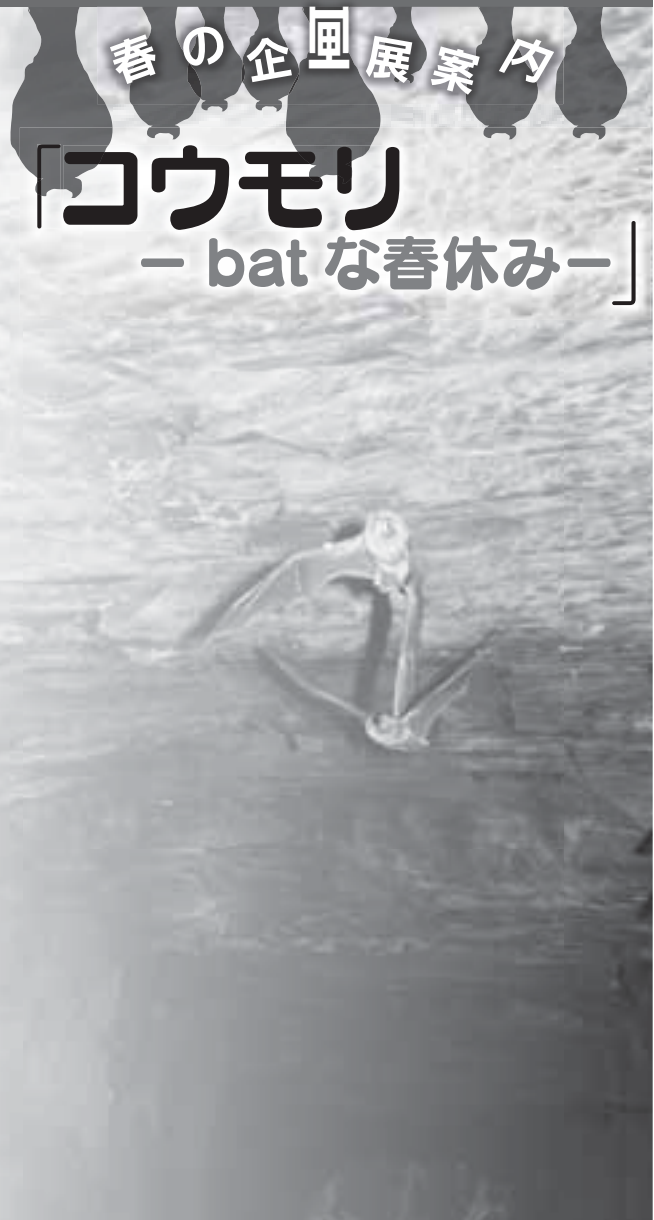
「コウモリ＝こわい」という考え方は西洋から入ってきた考えです。ドラキュラやハロウィンの魔女のお供に描かれているものを目にすると思います。それまでの日本では身近な存在でした。その証拠のひとつは名前の由来に見られます。諸説あるのですが、「川守が転じてこうもりとなった」とも言われています。ちなみに井戸を守るのが「いもり」で家を守るものが「やもり」と言われています。

日本のコウモリに対する思想は中国の影響を受けていて、蝙蝠とは福の象徴なので怖いイメージではなく描かれています。日本でも、歌舞伎役者である7代目市川團十郎はコウモリのデザインを好んで利用したようです。

人間とコウモリは同じ哺乳類で、コウモリはモグラなどの動物に近い仲間です。最近の研究ではウマに近いとの説もあります。コウモリのほかに空を飛ぶ哺乳類はムササビやモモンガなどいますが、自由に空を飛べるほど進化していません。コウモリだけは空を飛んで生活をするという特別な進化をした哺乳類なのです。



ぶらさがりながら休むキクガシラコウモリ



それでは最後に皆さんに問題を出しておきます。題して「あなたはどれだけコウモリを知っているでしょうか？ クイズ」

- Q1：イルカと同じチカラを持っているってホント？
- Q2：血を吸うコウモリは日本にはいる？
- Q3：日本の哺乳類の中でコウモリが種類の一番多いグループ？
- Q4：神様にも悪魔にもなるってホント？
- Q5：日本にカラスのような大きさのコウモリがいる？

さて、答えは展示を見に来て確認してください。それでは博物館でお会いしましょう。

(研究交流部 石井克彦)



イベントに参加しました

荒川いかだ下り大会



8月22日に開催された寄居町商工会有志主催「荒川いかだ下り大会」に、かわはくスタッフ6人で参加しました。ここ2年間は業務の都合上参加できなかったのですが、かわはくスタッフの「やりたい」という気持ちと「川の博物館の開館を記念して始まったイベントだから」という商工会の方の熱意で参加決定。交流員・倉上をリーダーに、「チームかわはく」が始動しました。さてさて準備～当日の首尾はいかに…

「笑顔でゴール」を目標に結成されたチームかわはく。全員初参加で、仕事後や休日を潰しての筏作りははかどらず…。こんな状態で平気？と不安いっぱい。そんな時、追い討ちをかけるように「二度と出たくない、死ぬかと思った」以前参加した知人の漏らした言葉を耳にし、大会当日は死を覚悟して臨みましたが（笑）、そんな心配をよそに「かわはく号」は一度も転覆することなく難所をクリア！カワセミ賞まで頂きました。川を渡るカワセミや青空、筏の上から見た景色は夏の最高の思い出になりました。（交流員 田口めぐみ）

7月20日、友人の家に田口さんと竹をもらいに行きました。男手が必要ということで、私の兄も参加。竹伐りも竹藪に入ることも初めてで、「蛇が出る」と脅されていたのでドキドキでした。竹は意外に軽かったものの、葉が絡まりなかなか採れずに苦戦していたら、兄が突然「オーエス！」と声をかけ始め、綱引きのように3人の力を合わせて楽しんで採りました。汗だくになって切った竹が結果的にはあまり使われなかったことは暑い中手伝ってくれた兄にはいまだ言えず…。準備を含めとても楽しい経験でした。

（交流員 浅賀美紀）

荒川を筏で下る、（なんだかそんなに面白くなさそうだなあ。）最初に感じた感想でした。でも、川は好きだし、ちょっとがんばってみようか、と、下見に行きました。正喜橋からかわせみ河原まで交流員の倉上さんと二人でライフジャケットを着込んで川を下ると、荒川は思いのほかスリリングで私を本気にさせました！本腰を入れた筏作りと数度にわたる試乗の結果、よく浮く筏が完成し、当日を迎えました。川って楽しいな！筏用にパレット貸していただいたセイコーの清水さん、ありがとうございます。（研究交流部 石井克彦）

筏メンバー倉上君の軽トラを借り、竹を運んだのは夏のいつの日だったか。浅賀さんの友人宅で真っ暗闇の中、蚊に刺されながらトラックに積んだのは何だかいい思い出です。いったん竹を倉上君の家に置いておいたのですが、何気なく触ったらグニャッと…。ナメクジが発生していてびっくりしました。皆でにぎやかな筏作り、筏自体はこつた作りではなかったけれど、完成した筏に乗ったときは大分テンションが上がったものです。なぜ優勝したのかはよく判りませんが、とても楽しい夏の思い出になりました。（交流員 成田信吾）

8月6日、天気は晴れ。石井さんとライフジャケットを着てプカプカと筏下りの下見に行ってきました。最初はコースの事や川の流れを見て「アッチが良い」とか「ココは危ない」とか言いながらでしたが、途中から鳥の説明をしてもらったり、犬と飼い主が河原で遊んでいるのを見たり、魚が跳ねたのを見て捕まえようとしたり、ただ川に入っているのが楽しくて「楽しいですね～」と何回言ったかわかりません。流れに揉まれて水を飲んだり、岩にぶつかったりもしましたが、夏を満喫した楽しい下見になりました。来年は二連覇を目指すぞ？！（交流員 倉上 岳）

企画展準備や各種イベントで一番忙しい時期である夏に、「いかだ下りに参加する」と決めた自分と川博スタッフは相当物好きだなあ、と思いながらの参加。多忙な中、時間をやりくりしてのいかだ作りは負担を感じる部分もあったけれど、本番の川下りの楽しいこと。だって普段は見られない荒川中州の岩体も、いかだなら難なく近づける！他の参加チームも、いかだに焼き肉セット（ビール付き）を積んだり、川遊びをしたり（ゴール無視）。かなりフリーダムにいかだ下りを楽しんでいるようすが印象的でした。

（研究交流部 小林まさ代）

12月

12/7/火~12/19/日

企画展「2010彩の国環境地図作品展」

12/21/火~1/10/月

企画展「荒川図画コンクール」

5/日 荒川ゼミナール・体験講座「秩父地方のおやつ」
時間：13：30～15：30
費用：500円（材料費）
定員：20名 ☎
内容：秩父地方に古くから伝わる「こぢゅうはん」の作り方を学びます。

11/土 かわはくであそぼう・まなぼう「クリスマスかざりづくり」
時間：13：30～15：30
費用：無料
内容：家で飾れるクリスマスかざりや、クリスマスカードを作ります。

18/土 かわサタ自然教室「野鳥の観察 [水鳥編]」
時間：13：30～15：30
費用：100円（保険料）
定員：25名 ☎
内容：双眼鏡を使って、かわせみ河原に飛来している水鳥たちを観察します。

23/木祝~25/土
かわはくクリスマスファンタジー
時間：夕暮れ～閉館まで

1月

1/15/土~2/6/日

企画展「杉崎夫妻のボタニカルアート展」

9/日 かわはくであそぼう・まなぼう「お正月遊び」
時間：10：00～12：00 13：00～15：00
費用：無料
内容：お正月の伝統遊びが体験できます。

13/木 荒川ゼミナール・大人の遠足「荒川河口を見る」
時間：13：00～16：00
費用：100円（保険料）
定員：30名 ☎
内容：荒川の河口を船に乗って見学します。

22/土 かわサタ自然教室「ハチミツの中の花粉さがし」
時間：13：30～15：30
費用：300円（材料費）
定員：20名 ☎
内容：ハチミツの中の花粉を顕微鏡を使って観察します。

2月

2/1/火~2/13/日

企画展「第三回 川の国埼玉フォトコンテスト展」

2/11/金~3/6/日

企画展「小松崎茂の世界」

5/土 かわサタ自然教室「野鳥の観察 [里山編]」
時間：13：30～15：30
費用：100円（保険料）
定員：25名 ☎
内容：双眼鏡を使って、川の博物館に飛来している冬鳥たちを観察します

13/日 荒川ゼミナール・講演会「秩父の地質とジオパークの取り組み」
時間：13：30～15：00
費用：無料
定員：80名 ☎
内容：地域ジオパーク化について、秩父市の取り組みの様子を秩父山地の地質の成り立ちを織り交ぜながら講演します。

26/土 かわはくであそぼう・まなぼう「おひなさまづくり」
時間：13：30～15：30
費用：無料
内容：おりがみを使って家で飾れるおひなさま作りをします。

3月

3/19/土~

企画展「コウモリー bat な春休みー」

6/日 荒川ゼミナール「早春のウォーキング」
時間：10：00～14：30（予定）
定員：20名 ☎
費用：100円（保険料）

20/日 かわサタ自然教室「カエルの卵観察会」
時間：13：30～15：30
費用：100円（保険料）
定員：25名 ☎
内容：川の博物館周辺で見られるカエルの卵を探して観察します。

27/日 かわはくであそぼう・まなぼう「科学あそび」
時間：10：00～12：00 13：00～15：00
費用：無料
内容：液体窒素を使った実験のデモンストレーション見学や、静電気遊びが体験できます。

27/日 かわはく春まつり
時間：10：00～16：00

ホームページでも紹介しています！

<http://www.river-museum.jp>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申し込みが必要です。開催日の1ヶ月前より電話またはFAX、Eメールでお申し込みください。③定員になりしだい締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地
TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332
Eメール/web-master@river-museum.jp



2010年11月30日発行